

新聞に親しみをもち、興味・関心をもって新聞を活用して いくためのN I E活動

長野県飯田市立伊賀良小学校 片 桐 和 子

1. はじめに

平成12年度（実践校1年目）は私が担任している6年4組で、個人研究という形でとりくむことになった。これまでも、前任校（飯田市立鼎小学校）で、学級の親子活動として5、6年担任の2年間、新聞日記を親子で回覧していた。新聞に親しむことができ、新聞のよさを感じ、授業にも生かしてみたいと思っていた。

平成11年、伊賀良小学校に赴任して5年生の担任になり、この学級でも親子新聞日記を始めた。平成12年に実践校1年目の指定を受け、新聞日記を続けてきた学級をもちあげたことからこの学級の子どもたちと、子どもたちがさらに新聞に興味・関心をもって学習に生かしたり、新聞活用によって生きる力がつけていけるようなN I E活動のありかたを探ろうとした。

2. 実践の内容

(1) 新聞日記を始めよう 平成11年（5年生）

① とりかかり

9月国語の単元『新聞をもとに』を学習した後、家から持ち寄った新聞から自分の興味のある記事を選び感想を書くという授業を行った。新聞の切り抜きに興味をもった子が多く、私が前任校でやっていた新聞日記を紹介してみると、「やってみたい」という声があがり、この学級でもやってみようということになった。

② 方 法

ア、一月に1回位回ってくるように2種類のノートと同時に回覧する。終わったら、名簿の次の人へ渡す。AノートBノートが交互に回る。

Aノート…名簿1番から順に

Bノート…名簿17番から順に

イ、家で新聞を切り抜き、子どもが簡単な内容と感想を書く。親も感想を書く。記事は自分で選んでもよいし、親子で選んでもよい。

ウ、学校に持って来たら、担任に出し、担任も感想を書いて次の人に回す。

エ、一家庭2～3日位で回すようにして、親の負担にならずかつ楽しめるように配慮する。

③ 始めたころの子どもの様子

新聞日記を始める前は、新聞といえばテレビ欄か4コママンガを読む子がほとんどであった。男子にはスポーツ欄に興味がある子が数人いたが、政治・社会・地方記事はほとんど自分からは読まないという実態であった。

始めのうちは新聞日記にどの記事を選んだらよいか、どんな感想を書いたらよいか迷う子が多くいた。新聞記事の内容を5年生が自分の力だけでは読み取ることが難し

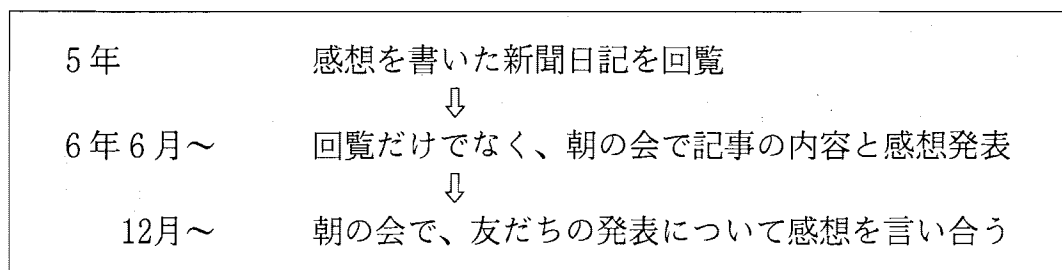
いが、親の力を借りることで理解したり、そのことで親子共通の話題ができコミュニケーションもふえるという親子で活動するいい面が見えてきた。友だちや友だちの家族が選んだ記事や感想を読むのはおもしろいようであった。

また、家庭の事情で新聞を購読していない家が2件、中国籍児童もおり、ない家には担任が新聞を渡したり、できる範囲で無理なく楽しくを大切にしてきた。

(2) 新聞日記を発展させよう 平成12年6年生(実践校1年目)

6年生になっても、新聞日記は継続していた。

担任として学級の子どもたちの様子を見て、自分の思いや考えを伝える力をもっとつけたいと感じていた。そこで、新聞日記に目をつけ、今まで自分の考えを文章にして回覧することで友だちに伝え理解し合ってきたが、今年度はこの新聞日記を活用し、伝える力を育てるのに利用できるのではないかと考えた。



6月になり、新聞日記も定着し、朝の会で『新聞日記の発表』という項目をつくり、自分が選んできた記事の内容と感想をみんなに伝えるという時間を担任の方からつくった。

発表の例として次のように提示した。「ぼく・私は()の記事を選びました。内容は()です。感想は()です。」

発表が終わると、拍手をする。それと同時に「どこの国のこと?」とか、「それ、知ってる。ああでこうで…」というようなつぶやきも聞こえた。1つの記事を選びそれを相手に伝えるためにはどんなことが大切なのが、どういうことを言えばよいのか、繰り返して行く中で少しずつ相手に分かりやすく伝えようとすることが身についてきた。また、友だちが選んだ記事の発表を真剣に聞く姿もあった。

12月になり、友だちの発表について、詳しく聞いたり質問する時間や、友だちが選んだ記事について自分なりの感想を発表する時間を増やした。

新聞日記の発表が終わった後、当番が全体に「質問・感想ありますか。」と尋ねると、いくつかの質問がでる。しかしいつも同じような人ばかりの挙手になってしまい、元気の良い子の発言のみで終わってしまうこともあったので、自由発言の他に新聞日記を書いた人の席の隣の人には必ず感想を言うというシステムにしてみた。どの子も必ず発表したり感想を言い合う場があるので、短い朝の時間の中で自分のこととして取り組めるようになった。

友だちの記事について感想を言い合う場面では、「ぼくも、悲しいと思いました。」という感想から、どういうところからかそう思ったのか問い返しをしたり、理由も言えるようにという助言をしてきた。友だちの考えを大切にしながらも、自分なりの思いや、感じ方も大切にしようとした。お互いの考えを認め合えるような学級作りにも、この新聞日記は役立った。

また、子どもたちは新聞によく目を通すようになり、友だちがコンクールに入選した記

事を見つかったり、自分たちが出場したドッジボール大会の結果の記事を何人もの子が切り抜いて持って来るなど、新聞がより身近に感じられた。他にも保護者の様々な考えを知ることでもでき、親子とも仲良くなる活動の1つになった。(2年間で10冊)

親交え切り抜き車の輪

長野県伊那谷の豊かな自然に囲まれ、リンゴの街として知られる飯田市。市内を通る中央道の飯田インターからほど近い、飯田市伊賀良小学校では、児童が関心を持った新聞記事をスクラップするというNIE活動を続けている。子どもたちは「以前よりも新聞に対して興味がわいてきた」と、活動を楽しんでいるようだ。

長野県
飯田市
伊賀良小学校

スクラップ活動をしてい
るのは、六年四組の児童三
十四人。クラスでスクラッ
プ用のノートを作り、児童
が関心のある記事を選び抜
いて感想を書く。親もコメ
ントを添えて、担任の片桐
和子先生に提出し、次の見
聞に回すという形式をとっ
ている。そのため、一人の
児童が記事スクラップす
るのは月に一、二回ほどだ
が、片桐先生は「新聞記事
動を指導していた。一学

いじめ考える契機にも



期、国語の授業で新聞をた
取り上げたことがきっかけ
となり、記事のスクラップ
活動を紹介。活動を始め
た。「最初は何を始める

のか、イメージがわからな
かった」と不安だった子ども
たちも、一年たった今では
「記事選びが大変だけれど、
いったん始めたらもう止ま
らない。どんどん感想も書
けるようになり、結構楽し
い」と、活動にのめり込ん
でいる。

児童たちは、登校前や帰
宅後、新聞を広げ、興味
のある記事を選び、記事選
びが難しいときや、内容が理
解しにくいときは、親に相
談しながら一緒に考える。
一面だけから選ぶ人、一通
り目を通してから選ぶ人
などその方法はさまざま
だ。

新聞をめくり、記事を選
んでいる中に、クラスメ
ートの仲間にも自分の選
んだ記事を紹介する児童
たち。長野県飯田市の伊
賀良小学校で

イトがかいた絵が入賞して
いたことを初めて知った
り、いじめに関する広告記
事を選んだことで、クラス
でいじめについて考えるき
っかけになるなど、思わぬ
発見につながった。

六年生になつてからは、
スクラップだけでなく、ク
ラス全員の前で自分の選ん
だ記事と感想を発表する試
みも始めた。記事を選約す
る力と、人前で話す力を養
う。 (飯田支局・谷 麻子)

2000年10月8日 中日新聞

前年一年の長男の家庭で暴れてなやんでいた母親が
 長男を殺してしまふ事件が起つた。長男は昨年の夏ごろ
 暴れまわつたやうになつた。日ごろから親と縁の空気を吸
 いてゐた長男はとうとう「殺してやる」と言つて父のガラスを
 砕いたり、二重の首をしめたりしてゐたらしい。

[illegible]

干葉 殺人容疑で両親逮捕

[illegible]

本日は女子もこのJAM大会
長ノドテホールの道のり

[illegible]

まゝで下さつたお母さんがありがたう。(ふふ、せうは衆大会に出席したつてその
足腰に疲労を感ずたので、お母はそ

先生 せうし。	や	思い出に残る 記事 の一つになりますね 男子のさんぽり、女子の 親の庇護、どれもか 精一様下すばらし かったです 感謝を	ありがとう。
---------	---	--	--------

12/12 信譽每日新聞



女子予選リーグでボールに合わせ
てチーム一体となり動く選手たち

[illegible]

伊東由歌

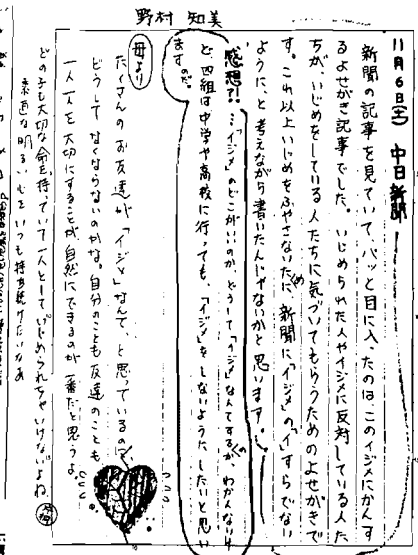
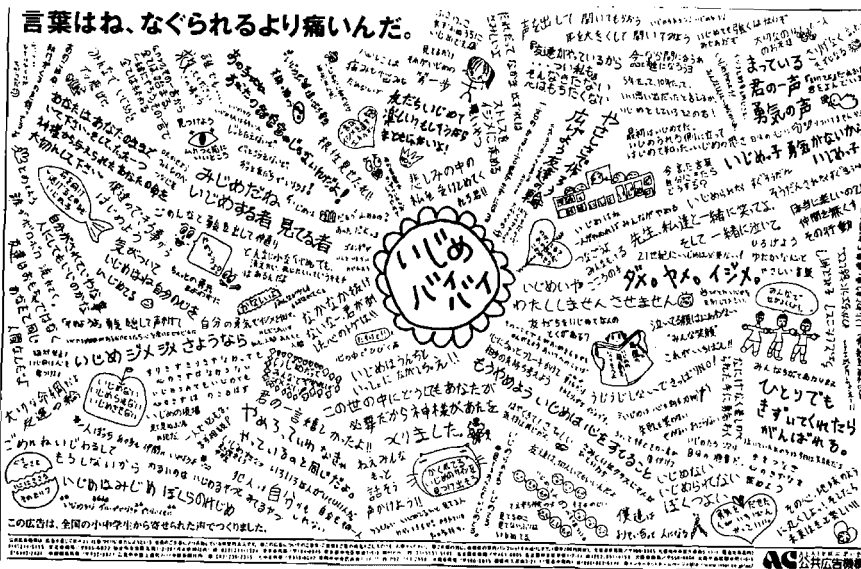
(3) 新聞日記の記事から授業で考える

子どもたちが発表した記事の中で、全体に投げかけて考え合う授業を学級活動や道徳の時間に行った。本の資料ではない現在進行形の内容であり、それも先生からの提示でなく、子どもが選んだ資料のため、前向きに考えることができた。

【事例1 いじめを考える。標語作り。11月】

同和強調週間中、Tさんの選んだ『いじめについてのAC公共広告機構』の記事を学級便りで全体に紹介し、自分たちもいじめをなくすために考え合い標語をつくった。教室に掲示し、いじめをなくすための意欲を高めることができた。

〈考えるもとになった新聞広告(新聞日記)と学級通信〉



HAPPY

水野 里恵

H11. 11. 22

伊賀良小

5年4

NO. 64

いじめをなくし みんなが仲良く楽しく生活するために 標語を作りました。

いじめられる 人がいない クラスにしたい (成美) 悪口は 人の心を きずつける (誠) いじめゼロ みんなでやめよう いじめ代め (達太郎) きずついたら 心はもとに とどろない (里恵) いじめはね 悪いことだよ やめようね (太科) いじめして かなしいところを 見たくない (知美) すごいなー クラスのいじめ ふっくらんだ (剛志) いじめはね 人の心を 代めにする (中かり) 心はね きずがついたら 治らない (栄摘) 一言で 人の心に きずがつく (由歌) いじめって 勇気がないから いじめって (陽介) 社会で みんなでやめよう いじめ代め (孝仁) いじめはね 心のきずから 治らない (葉子) ここにね うつろくとくよ その言葉 (愛) 伊賀良小 5年4組 いじめゼロ (圭亮)	けしゴムで けさない物は 心のキズ (真由美) いじめダメ 心のきずが ぬかれない (祐太) その言葉 言われた人は キズつくよ (有希) いじめはね やられた人は かなしいよ (貴弘) みじめだね いじめする者 みてるもの (祐) いじめはね なくせば笑顔が もどってくる (有希) いじめはね 一生を きずつける (見一) 言葉はね いじめることにつかわない (修平) いじめたら あやまればいい なかなあり (大貴) その言葉 人の心を きずつける (大輔) いじめなし みんなやめれば いじめゼロ (博愛) 人のこと 悪く言うのは いけないよ (重木) ぼくらは みんながよし いじめなし (晃) 一言が 人の心を きずつける (栄月) やめようよ 変な代わりで 人をよぶ (亜弥) いじめで 強くなれない いじめで (元亮) いじめない 心とみんなを 育てよう (達彦) 見たものに 見てないふりは いじめてる (圭) いじめとね やめればみんな 友達さ (経) めでそうよ 笑顔あふれる HAPPYクラス (片桐)
--	---

これから希望にふたつして、意識して生活していきたいです。

わがいのこめられた大切な名前をいやる叫び方をされたら、誰だっ

てはいよいよ、いじめのどめをしよう。

【事例2 これでもいいのか成人式 1月】

各地で話題になった成人式の記事について選んだSさん、Kさん、の記事をもとに感想を書き、みんなで発表し合うとともに、数年後の自分たちの成人式は、また3月の卒業式はどうあったらよいのかを考え合った。

〈子どもの感想から〉

- 成人式とか、卒業式とか、めんどくさい気持ちが自分にはあるけど、こういうひとつひとつの行事をきちんとやって大人になっていくんだと思う。めんどくさいからとだらだらしたり、おしゃべりをしていたら、けじめのない大人になるかもしれない。私は、卒業式にまじめに取り組んで、これからはがんばるという気持ちを大切にしたい。
- おしゃべりは暴力だ。真剣に話をしているのに、しゃべったり、携帯電話を使うのは失礼なことだと思う。僕たちは理科の時間にしゃべっていて木下先生にいやな思いをさせてしまったことを思い出した。弱い心に負けないようにしたい。

(4) 新聞購読

- ① 期 間 平成12年12月と平成13年1月の2か月間 (全紙)
- ② わ け ○年末・年初め・新世紀になるので、時代をまとめるような記事に出会えるのではないかな。
○社会科で公民分野に入る。
- ③ 実施したこと
 - ア、新聞の配置
子どもたちが自由に見ることができるように、教室の大机に置き、いつでも見ることができるようにした。
 - イ、社会科の授業で活用

【事例1 キーワードをもとに新聞の切り抜き 12月・1月】

6年生は、歴史の学習を終え、『わたしたちの生活と政治』という単元に入り、政治については身近かなことでなく、あまり興味・関心の少ない子どもたちであった。継続している新聞日記には自分の興味のある記事を選んでしたが、社会科の授業の中で、導入時と2週間目に『森総理大臣』『田中県知事』をキーワードに新聞から記事を選び感想を書くという授業を行った。このキーワードは同じ学年の先生のアイデアをいただき、いつも教室にある新聞を何日分かをまとめてみて切り抜きをしたり、教室に掲示した。

新聞記事を探しながら、キーワードの他に、自分から自分が関心のある政治の記事を選び出して、友だちに説明しながら切り抜きをする子もいた。(例えば、アメリカ大統領選挙など)

〈キーワードをもとに新聞の切り抜き〉

信濃毎日新聞

1面

県政に参加7割意欲

自治と政治意識調査

田中知事支持は9割

性別	肯定	否定	不明
男性	78.0%	20.6%	1.4%
女性	77.7%	20.1%	1.4%

田中知事に代って男性も女性もいろいろなことを自分の問題として考えるようにならなければ

田中知事の政策を
のびに地方自治を自ら
問題として考えるように
努力したい

田中知事はきょうから9割、
支持されていると、はじめて
思いました。

1月24日(火)
信濃毎日新聞
桜井陽介

下諏訪ダム「検討続ける」

田中知事現地視察し方針
住民集会で賛否両論

「生活を守って、改修優先を」

下諏訪ダムは、テレビのニュースとかで見た
ことがあって、岡谷の水源地にやがてなると聞いて、
いて、できた方がいいのかは、話しあってみ
てほしい。

辛酉の日の
22日

中日新聞
1月23日(火)
2000年 平成13年
感想 2面

へんな事はかり
言う森さん
おかげで、おこと
ばい、いいほう
がよい。 土屋元長

〈授業をしておのの感想と考察〉

- 何が書いてあるのか、内容が難しいことがあって、先生に聞いたりしたけど、みんなで新聞を切り抜く授業はおもしろい。
→机上の学習に作業体験が入り、子どもたちに意欲をもたせやすい。
- 森総理大臣は外国に行って、こういうことまでするとは知らなかった。新聞に今日の行動予定までのっていて、大変なんだな、日本では重要な人なんだなと思った。
→教科書に「内閣総理大臣の仕事は……」と書かれた文章で学んであったが、新聞から具体的なこととして読み取ることで、仕事の内容を具体的に理解したり内閣総理大臣がより身近かに感じられた。
- 毎日、政治についてこんなに記事がのっているとは知らなかった。家でも新聞の一面の見出しに森とか田中とか出ていると気になるようになった。
→今までにない新しい世界への広がりが見られた。

その後、日記にも政治にふれる内容が増えてきたり、ハワイの原潜衝突事故の様子やその時の森総理の動向については子どもたちが非常に関心をもって、意見を言い合うようなことがあった。

【事例2 新しい資料として活用 平成13年1月10日】

小单元 『みんなの願いを実現する政治』

ねらい 内閣の仕事を調べたりまとめたりして、その働きと国民主権との結びつきを調べることができる。

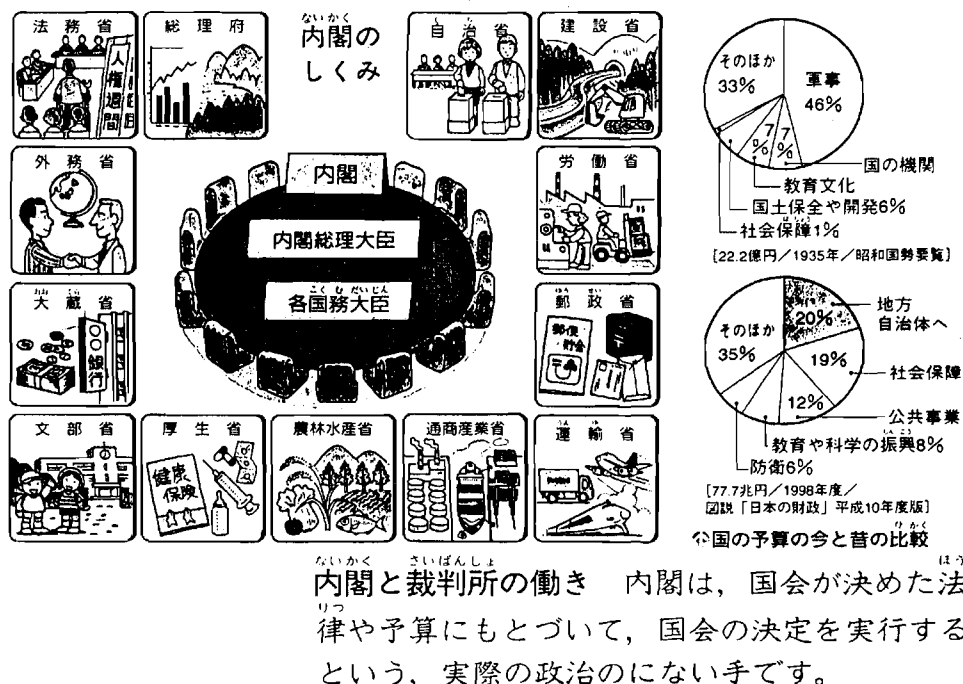
授業の概要

学 習 活 動	子どもの様子
①知っている省庁を言おう。	大蔵省、文部省… 財務省もある。 代わったんじゃないの。 冬休みにニュースでやっていたよ。 知らないなあ。 教科書に書いてあったよ。
②教科書をみてみよう	あれ、教科書には財務省ってないよ。 これ、古いんじゃないの。
③平成13年1月6日の新聞記事を配る。 (コピー)	みたことあるよ。 今までの教科書と違うんだな。 この前変わって、新しくなったばかりなんだ。 文部省じゃなくて文部科学省になったんだ。 扇千景さんって知っている。見たことがあるよ。
④新聞記事を読み、質問をみんなで考えてみよう。	どんな仕事をしているのかな。 どうしてかわったのかな。 名前が変わって仕事の内容もかわったのかな。
⑤仕事をまとめてみよう。	

難しい語句を覚えるのではなく、政治は、国民の考えをもとにどんどん変わっていくもので、より良い政治にしていくには自分たちもかかわっているのだから（国民主権との結びつき）、関心をもっていこうという意欲づけになった。

また、新聞はより新しい情報（資料）をわたしたちに伝えてくれ、テレビではさっと流れてしまうものが、新聞だとじっくり読めるよさも感じたようであった。さらに、購読していた各社の新聞の第1面、2面と大きく掲載されていたことで、日本の国としての大きな動きを感じ取ることもできた。

〈資料A、使用していた教科書（東京書籍）P12〉



〈資料B、平成13年1月6日の新省庁にかかわる新聞記事（各社） 掲載略〉

(5) その他

① 新聞委員会発足

伊賀良小学校の児童会には、“新聞委員会”がなく“お知らせ委員会”が放送と掲示物の張り替えの仕事をしていた。平成12年度、“お知らせ委員会”から独立し、“新聞委員会”ができ、学校の様子を新聞によっても伝えようと取り組み、新聞作りのために新聞記者の方にも来ていただいた。新聞委員会の顧問になり、計画・取材・レイアウト等子どもたちとともに考え、楽しく新聞作りができた。

② 夏休み自由研究へのとりくみ

夏休みの自由研究の一つに『子ども新聞コンクール』を紹介し、強制ではなくやってみたい子が取り組んだ。また、日記のかわりに新聞日記にしてとりくむ子もあり、今まで以上に進んで新聞を取り入れた自由研究を考える子が他クラスに比べて多かった。

3. 平成13年度のNIE実践計画

この3月6年生を卒業させ、4月に5年生の担任となった。NIE活動のよさを感じた学年職員の理解により、昨年度の単独学級での取り組みから、「今年度は5学年4学級全体でとりくんでみましょう。」と個人研究から学年研究へと広がりができたことは心強いことである。

実践校2年目であるが、NIE活動と出会う初めての子どもたちと、新聞に親しみ、興味・関心をもって新聞を活用していけるための手立てを新聞を読みながら考えている。実践校でなくなっても続けていけるようなNIE活動のよさを伝えたいと思っている。